

SAGA2024国スポ・全障スポ総合開会式“直前”会見

SAGA2024 は、宿泊の関係で会期前競技が多い大会。総合開会式前に、会期前競技も含め状況を説明したい。天気予報はこちらでは分からないが、何とか天気にも味方してもらって開催したい。

「新しい大会」の根底にある佐賀県独自のSSP構想

SAGA2024 は、佐賀県独自のSAGAスポーツピラミッド構想を掲げた国スポ。

日本のスポーツシーンは、世界標準と明らかに違う。スペインでは、試合2時間前からスタジアム周辺で飲食を楽しむ。いわゆるスポーツホスピタリティの概念が浸透している。日本は、一般的に試合観戦が目的。せっかくなら、スポーツを「する」「観る」「支える」楽しみ方を取り入れ、お金が回ることで、アスリートに還元するシステムを構築したい。

スポーツピラミッド構想は、トップアスリートを育てながら、競技人口のすそ野を広げる。すそ野を拡大することで、選手は引退後に指導者として新たなステージが得られる。

県民にとっても、トップアスリートやプロ選手が身近にいる環境ができる。また、自分自身がそうなる可能性もある。

SAGA2024 は、あくまで通過点。その先の目標がSSP構想。

開会式会場に、観客席を覆う屋根を造らず、その経費をアリーナやアクア、スポーツクライミング、レスリング会場などに投資した。また、環境の充実として、トップチームの強化合宿、県内就職支援、高校生のアスリート寮の整備、女性アスリートの健康を守る女性外来をつくった。アスリートの人生に寄り添い、佐賀から新たなスポーツシーンを切り拓いていきたい。

国体から国スポに変わる 新しい大会へ～すべての人に、スポーツのチカラを～

1946年、国体は体育として、教育・身体の鍛錬から始まった。これは、戦後、国民に勇気と希望をもたらす役割を果たした。以後、77回伝統は守られた。

しかし、スポーツを楽しむ部分が少ないと感じる。国体から国スポへ変わる。これを単なる名称変更にと終わらせてはいけない。明日への活力・希望になるよう、スポーツの力を活かしたい。

2020年のかごしま大会が中止になり、佐賀の2023年開催を譲ったとき、譲れない一線が最初のスポーツ大会だった。佐賀県は初めてのスポーツ大会の意義を具現化できる、と主張し2024年に初の国民スポーツ大会を開催することになった。

スポーツには、生きていくための原動力となる本質的な価値がある。自由に、喜んで、感動し、楽しむ。我々の時代の体育は、我慢や鍛錬の要素が多かった。体を動かすことを喜べる環境をつくりたい。

大会運営も新しい着想で挑戦していこうと数年前から考えてきた。

新しいスポーツの大会を彩る 新しい取り組みにチャレンジ

・新しい大会を象徴する式典

自由で楽しさあふれるパレードのような選手団入場を計画。中央からせり上がる形で入場する。各県のパフォーマンスは、当日のお楽しみ。

・競技動画の配信

実況解説付きの競技配信は評判がよく、全障スポの配信も初めて行う。全国に配信しているので、スポーツ関係者にも喜ばれている。

・サガンティア

たすきみたいなデザインのウェアも好評。サガンティアは、ゲームズメーカー。例えば、手話通訳者がいないと試合が成立しない。

・それぞれの活躍にスポットをあてた表彰

「The Good Player of SAGA2024」を創設。選出方法は、各競技団体に決めてもらう。例えば、剣道では優勝したチームの監督が、自分のチームの MVP を決める。カヌーは、2種目制覇した選手に。ライフル射撃や水泳競技は、新記録を出した選手に個人表彰として市町や県の特産品をプレゼントする。全障スポでは、伴走者、ランプオペレーターにもメダルを授与する。

・リアルアスリート・ピクトグラムは、スポーツのすばらしさを表現。

・観戦ガイドブックは、解説がわかりやすく、各会場で配布。

・ナイトゲーム

ナイトゲームは初開催。バレーボールでは初めてアルコールを提供。昼間仕事の人も、家族で見に行くことが可能になった。

・ウェルスポエリア

開・閉会式の日、ウェルスポエリアでスポーツ体験ができる。

・アスリートレシピの開発

スポーツ栄養学のエキスパートによるレシピ集、ネットでの閲覧も可能。選手のお弁当で提供し、おいしいと好評。揚げ物を入れないなど工夫がある。

“新しい大会”はもう始まっています！～鮮やかに浮かび上がる様々なチャレンジ～

宿泊施設に食事がついていなかった、お店がいっぱいで入れない、など問題が出て、差し入れや、店を開けてもらって、みんなで工夫しながら解決しているらしい。

ピクトグラムが格好いい、SAGA アリーナ、アクアは世界基準の大会みたいだと、競技

団体の主催者からの評価も高い。

課題も含め滋賀、青森、宮崎につないでいきたい。

会期前競技（全 12 競技）佐賀県選手団 熱戦の記録

国スポの開催県は全競技に出場できる。しかし、8位までしか点数が入らない。開催県が上位になることが多いが、努力を積み重ねた結果だと知ってほしい。

個人競技は、1位が8点、2位は7点、以降1点ずつ減り8位は1点。競技によっては、それが3倍になる。サッカーやラグビーは8倍、体操は5倍。この積み重ねが総合順位につながる。

- ・アーティスティックスイミングは、初参加で18位。初めて出る競技があり、そのことも国スポの価値を高めている。
- ・体操は、過去最高の成績。成年男子は2位、成年女子は4位。少年男子は5位。
- ・オープンウォータースイミングは、渡辺選手が5位。
- ・水球の少年男子は、強豪の山口県と京都府の組になり、善戦したが1勝できなかった。
- ・トランポリンは、杉原選手が出場。かごしま国体では、熊本の選手として出場し12位。佐賀の人と結婚し、今回は佐賀選手として出場。4位になり5点獲得した。
- ・ビーチバレーは健闘したが、ベスト8決定前の試合で男女ともに敗退。
- ・カヌーは、矢澤亜季選手がカヌー・スラロームと25ゲートカヤックシングルで2冠を達成。男子の佐々木優選手が2位。
- ・飛び込みは、神田新選手が高飛込で3位。荒井祭里選手は、高飛込が1位。佐賀の点数を増やしたいと、専門外の飛板飛込に挑戦し3位。
- ・水泳は、関東勢と大阪に完敗。少年男子B（高校1年生・中学3年生）野中選手が、中学新記録を更新して2位。
- ・ローイングは、成年女子舵手付きクォドルブル3位。
- ・サッカーは、少年男子でサガン鳥栖U-15が中心になり過去最高の2位。少年女子は、初戦が北海道。相手のシュート数は計22本、後半に1点取られた。佐賀は、ほとんどをゴール前で守り、1度だけ相手エンドに入り放った1本のシュートがゴール。1対1に追いつき、ペナルティキックで勝った。結果ベスト8に入り12.5点獲得。
- ・テニスは、成年女子が5位。
- ・新体操は、少年男子、少年女子ともに1位。それぞれ40点で、合計80点獲得した。特に男子は久しぶりの種目復活。神崎清明が頑張った。女子は、ライバル校である佐賀女子と佐賀北の合同チーム。難しい調整を乗り越えた優勝。
- ・ソフトテニスは、成年男子が3位。
- ・クレール射撃は、スキート団体が8位。
- ・ライフル射撃は大分で行われ、成年女子50mの井浦選手が2位、少年女子10mの野

田朋花選手が1位。

- ・剣道は少年男子が1位、少年女子が3位。成年男子は3位。成年女子が優勝。
- ・セーリングは唐津で開催され、成年男子470級でオリンピックの岡田・田中丸組が1位。成年男子ILCA7級では南里選手が2位。
- ・ウィンドサーフィンでは少年少女が優勝。

速報！総合成績（天皇杯） 佐賀県は現在4位

昨年のかごしま国体の成績は11位。今大会は、9月30日時点の順位が4位。

国スポは、スキーやスケートなどの冬季大会から始まるため、北海道が1位で、東京都が4位。佐賀は32位タイ。

その後、会期前競技が始まった。東京は競泳が強く、またさまざまな競技で優勝するので、大きく突き放された。現在、新体操と剣道のおかげで4位まで追いつけている。途中経過は、ホームページ上で毎日更新中。

例年、閉会式で8位以上を発表する。それでは、ほとんど都市部が占める。今大会では16位から発表する。

県対抗に意味があるのか、と疑問をもつ知事もいる。だが、普段個人で戦っている選手が県代表として戦うことが、いろんな場面で生きてくるのではないかと。

あと27競技残っている。大量得点する可能性のある団体競技でポイントを重ねていけるかどうか。

皇室のみなさまも御来県になります～SAGA2024 競技御覧と佐賀県御視察～

天皇皇后両陛下の日程は、5日 SAGA2024 国民スポーツ大会総合開会式に御臨席。6日は、バレーボールを御覧になり、肥前浜駅・HAMA BARの御視察。

愛子内親王殿下は、11日に陸上競技を御覧になり、佐賀城本丸歴史館を御視察。12日は柔道を御覧になり、佐賀県赤十字血液センターと名尾手すき和紙の御視察。

佳子内親王殿下は、14日にスポーツクライミングを御覧になり、九州陶磁文化館を御視察。15日は SAGA2024 国民スポーツ大会総合閉会式に御臨席。

秋篠宮皇嗣皇嗣妃両殿下は、25日に佐賀県立盲学校などを御視察。26日は、SAGA2024 全国障害者スポーツ大会開会式に御臨席。

多くの皇族方が御来県になります～SAGA2024 競技御覧と佐賀県御視察～

承子女王殿下は、7日にアーチェリーなどを御覧になり、8日は吉野ヶ里歴史公園を御視察。

高円宮妃殿下は、8日に嬉野ティーリゾート、9日は伊万里大川内山の御視察。

彬子女王殿下は、10日にラグビーフットボールを御覧になり、11日は佐賀整肢学園こども発達医療センターを御視察。

瑤子女王殿下は、12日にソフトボールを御覧になり、鹿島市民文化ホール SAKURAS を御視察。

寛仁親王妃信子殿下は、13日に柔道、14日は陸上競技を御覧になる。

佳子内親王殿下は、26日にバレーボール競技を御覧になり、基山のPICFA、唐津市の曳山展示場、佐賀星生学園、“あいさが”を御視察。